

第2回都道府県審判指導員研修会に参加して

新潟県高野連審判部長 笠輪 充
〃 南支部審判委員 柳鳥 和久

- ◎主催 一般社団法人全日本野球協会
◎期日 平成27年11月28日(土)～平成27年11月29日(日)
◎会場 ハードオフエコスタジアム新潟
◎講師 全日本野球協会インストラクター 桑原 和彦氏、戸塚俊美氏
◎受講者 北信越地区5県の各団体のスーパーバイザー及びインストラクター
◎モデル校 新潟医療福祉大学 硬式野球部
◎日程 11月28日(土)
13時～16時 ・開校式
・Go-Stop-Call
・本塁のタッグプレイ
・外野飛球の判定、4人制メカニクス
・ランダウン(球審、3塁塁審)
・2級講習、3級講習の説明
19時～21時 情報交換会
(宿泊：新潟第一ホテル)
11月29日(日)
9時～正午 ・Go-Stop-Call
・球審の構え方、トラッキング
・ソフトトス、投球判定
・1塁ビュートレーニング、フォースプレイ
・2塁盗塁
・規則違反の投球および本塁周辺のプレイ
・投球関連動作の確認
・キャンプゲーム
・閉校式

このたびの審判指導員研修会は、全国を8ブロックに分け北信越地区の5県から社会人、高野連、全軟連それぞれのスーパーバイザー及びインストラクター計36名が集まって行われました。2年前の第1回目と同様、基本的にはスーパーバイザーが指導、インストラクターが模範実技という役割分担で行われました。このような機会を与えていただき、新潟県高等学校野球連盟の役員ならびに審判部の方々に心からお礼と感謝を申し上げます。

雨天のため、一日目の前半を除き室内練習場での実施となりましたが、講師の方が臨機応変にメニューを変更し非常に中身の濃い有意義な内容でした。

指導員研修会と言うだけあって、当然のことながら受講者のアンパイアリングのレベルは非常に高く、受講者同士が互いに切磋琢磨できた刺激的な二日間でした。

以下、このたびの研修で確認した特記事項を報告させていただきます。

◆Go-Stop-Call

- ・「アウト」はこれまでは前方45度だったが、大きく見せるために30度に開く。ただし、こぶしのベクトルは壁に垂直に当てるので内側に向ける。

◆1塁フォースプレイ

- ・セーフの判定は、打者走者の触塁後「どっちだ」という間をあける。目安は打者走者がベースを2～3歩過ぎた頃にジャッジ。

◆投球判定

- ・威風堂々とどっしり感を出す。あまりきびきび動きすぎない。
- ・ゲットセットのタイミングは、投手が自由な足を地面に着いたとき。早く構えると疲労から1試合約300球の判定ができなくなる。
- ・捕球したミットの位置で判定するため、ミットを動かす捕手には「お互いのために正しい判定ができないから動かさないように」と注意しておく。
- ・捕手が内角に寄ると打者との間が狭くなりスロットルポジションの位置がとれなくなるが、その場合は若干高く構えて対応する。

◆本塁のタッグプレイ

- ・バットを取り除くことはあまり考えない。基本は捕手が取り除いてくれる。バットが近くにあり、かつ取り除いた後プレイに十分間に合うときのみ取り除く。ただし、取り除く場合は、絶対に走者から目を離さない（オブストラクション、コーチャーの肉体的援助など）。

◆4人制メカニクス

- ・ベースカバーに行くとき、かけ足は急ぐが視野が狭くなるため全力疾走はしない。
- ・ベースカバーに向かいながら走者や打者走者の触塁確認は止まって見ない（遅れるため）。特に走者1塁でエンドラン、3BU ゴーアウトのケースは、あっという間に1塁走者は本塁へ到達する。

◆2人制メカニクス

- ・4人制を習得するうえで、非常に重要となります。練習試合等で是非取り入れてチャレンジして下さい。